

第34回BELCA賞 ロングライフ部門選考評

BELCA賞選考委員会 副委員長 川瀬 貴晴

今回、第34回BELCA賞表彰全10件の中で、ロングライフ部門は3件であった。これらの建設年は1960年、1926年、1900年であり64年～124年というロングライフの建物である。今回はロングライフ部門、ベストリフォーム部門共に例年に比べ多くの優れた建物の応募があり選考には苦勞した。選ばれた建物は、皆関係者により時代を超えてその機能を維持する努力が行われ、人々に愛されて来たことが選考者に強く伝わってきたものである。

「九州工業大学 鳳龍会館」は、九州工大前駅から徒歩10分弱の戸畑キャンパス正門を入ってすぐのところに木立に囲まれて建つ会館である。当初は事務棟であったものを2008年に大規模改修し会館として利用されている。このときの改修では竣工時の記録なども参照しながら丁寧な施工が行われているが、当初の面影を残しつつ会館として利用するために内部の間仕切り等を整理したために6.4m角の正方形ユニットを10個並べた平面形状が竣工時よりもはっきりと現れていて、透明感も増したのではないかと思われる外観となっている。これまでの保全・改修に対する取組だけでなく、キャンパスマスタープランの中で歴史的エリアの重要要素として位置づけ、今後の維持管理面の取組もしっかり行われることが想定できたことも評価された。

「求道学舎」は、文京区本郷に建つ3階建ての集合住宅である。求道会館の左横の小道を通り巨大なヒマラヤスギの先に玄関がある。約100年前に学生寮として建設され2006年に10戸の共同住宅に改修された。このとき従来の外観を保ちながら機能は現代の住宅に、法適応や金銭的な面での困難を克服し改修され、建築主と居住者のロングライフ化への取組の熱意と努力も含めて評価された。改修時に定期借地権が設定されその期限は2068年である。この時点で築142年になるが再度定期借地権の設定が行われれば日本最初の200年RC住宅になることも想定されている。今後の大規模改修やその資金手当てなどについても考慮がなされているが200年RC住宅が実現されることを期待したい。

「瀬戸永泉教会」は、将棋の藤井王座の顔出し看板が置かれた名鉄尾張瀬戸駅から徒歩15分弱に位置する小さな木造教会である。瀬戸永泉教会は1888年に設立され、この教会堂は1900年に建設された。国指定登録有形文化財であり、愛知県でキリスト教の礼拝が行われている教会として最古の木造教会である。経年による劣化が進む中2018年に改修設計方針を決定し、2022年に改修工事を完了した。このときの工事では限られた資金で設計者と教会員、施工者の知恵と工夫を寄せ合って必要最小限の改修・修繕が行われている。100年を超える時を超えて地域の人々に支えられ愛され活用されているこの建物はロングライフ賞にふさわしいものと評価された。

建物のロングライフ化には時代の変化に応じた保全・改修が必要であるが、最近では省エネや省CO₂に対する考慮も求められるようになってきた。このCO₂排出量削減については今までは施設運営にかかわるエネルギー消費由来のCO₂排出が問題であったが、最近では建設時や建設資材や材料あるいは設備機器製造時のCO₂も問題となりつつあり、そのCO₂排出量を計算する手法なども整備されつつある。この建設資材等を含めた建設時のCO₂排出量は大きいので、建物のロングライフ化はCO₂排出量削減という視点からも重要である。日本は2050年までにカーボンニュートラルを実現することを目標にしているが建物のロングライフ化はカーボンニュートラルという視点からも推進が望まれる。